

高杉晋作「高杉晋作書簡」(『亡友帖』より)

慶応元(18

65)年頃

はいしょうたてまつりそうろう

奉拝誦候、掛物槌に落

にわか

領仕候。過日は遠方御来

らい

じょうかたじけなくたしやたてまつり

杖辱 奉多謝候。其節は

おそれいたりたてまつり

激論申述 奉恐入候、病客は

とかく

気短にて兎角失敬。

くだされ

たのみたてまつり

御許容被下候様 奉頼候。為国

くにのため

じょしんいのるところ

の狂言と御恕心所祈に

御座候。航蔵氏えも宜敷

の儀、孰れ

はいほうばんるこれあるべく

拝鳳万縷可有之。貴答

迄勿々頓首。

十六日

谷

石田様

貴報